



株式会社 ファルマ

弘前市北横町 19-1

Tel 0172-37-6016(代)

発行：編集委員会

印刷：小野印刷

第 202 号

ケアの視点から医療や介護の 無差別平等を考えた学術・運動交流集会

ファルマ弘前薬局 薬剤師 田中 理久

10月10日(金)～11日(土)に東京都で行われた第17回全日本民医連学術・運動交流集会に参加しました。今回は「戦後80年、憲法を守って非戦を貫き、平和で公正な社会を目指そう」、「ジェンダー平等・ケアの視点で医療・介護活動の二つの柱を深化させよう」、「地域での連携・共同の中で民医連事業所の力を発揮し、無差別・平等の医療と介護、福祉を実現しよう」をメインテーマとして開催されました。

1日目は安田菜津紀氏の「紛争地、被災地に生きる人々の声」取材から見えてきたこと」というテーマで講演が行われました。実際の紛争地や被災地の写真、取材体験を話していただき、

非戦の重要性、不平等な世界情勢を目の当たりにしました。なんの罪もない人たちが、平等に扱われない戦争という不条理を、自分に関係ないからと素通りしてはいけないと思いました。午後には、「どうする？食べることの多職種協働」のテーマ別セッションに参加しました。各職種から食べることや嚥下についての取り組みが報告され、多職種との連携により医療・介護の質をあげることが出来る

と感じ、一薬剤師・薬局としても職能を果たせるようになりたいと思いました。2日目にはポスター発表を行いました。私は「保険薬局における服薬フォローの実践」について報告し、

薬剤師や栄養士などさまざまな職種からも質問をいただき、意見交換をするいい機会となりました。全体を通して、平和や平等の重要性をより強く実感しました。ケアの視点から医療や介護において無差別・平等を考え、個人に合わせたケアが必要だと思いました。またそれを実現し、よりよいサービスを提供するために、多職種との連携を深め、地域に根差した薬局でありたいと思いました。

機会を通して、平和や平等の重要性をより強く実感しました。ケアの視点から医療や介護において無差別・平等を考え、個人に合わせたケアが必要だと思いました。またそれを実現し、よりよいサービスを提供するために、多職種との連携を深め、地域に根差した薬局でありたいと思いました。

機会を通して、平和や平等の重要性をより強く実感しました。ケアの視点から医療や介護において無差別・平等を考え、個人に合わせたケアが必要だと思いました。またそれを実現し、よりよいサービスを提供するために、多職種との連携を深め、地域に根差した薬局でありたいと思いました。

二度と戦争をしないために

本部 課長補佐 工藤 由希子



10月25日(土)愛知県市民会館ビレッジホールを会場に2025年日本平和大会in愛知が開催され、開会集会をオンラインで視聴しました。開催場所の愛知県

は軍需産業が集中し、長射程ミサイルの開発・生産、次期戦闘機の共同開発などを推し進めています。こうした中で、戦後・被爆80年のこの年に愛知県で日本平和大会を開催できたことは、愛知を「死の商人」の拠点にはさせないと運動を繰り広げている人々にとっても、大いに意味のある大

会になったのではないかと思います。開会集会は、名古屋空襲体験者の皆さんや被爆2世の大村さんからの訴えの他、現在のウクライナの現状やガザで続いているジェノサイドの問題など、多くの方々からの報告がありました。再び戦争への道を許さないために、私たちは今後も学習し、交流し、運動を展覧させていくべきだと強く感じました。

薬の知識を常に磨き続ける

ファルマ一ツ谷薬局 薬剤師 福井 寛太

10月12日(日)～13日(月)にかけて京都で開催された第58回日本薬剤師会学術大会へ参加しました。

機器展示では、監査システムやAI薬歴機能、調剤自動ピッキングシステム等のブースが非常に多く、業界全体の対人業務へのシフトが急速に進んでいることを実感しました。口頭発表、分科会、ポスター

発表へも参加しましたが、その中でもポリファーマシー関連のポスターに注目しました。現在特に高齢者における多剤併用は薬物相互作用や有害事象などのリスクが高まるため大きな課題となっており、薬剤師として患者様、多職種と相互に連携しポリファーマシー是正に関わっていかねければなりません。会場でも多くの薬剤師とコミュニケーションを取る中で、全国規模でもその解消にはハードルが高いということが分かっただけでなく、患者様・医師・薬剤師それぞれの考え方が複雑に絡み合っており一筋縄ではいかないことを再認識しました。ただ、重要なのは根気強く患者様・医師などに継続して働きかけることや薬剤師自身が減薬に必要な薬の知識を常に磨き続けることだと思いました。



参加した西沢薬局長、工藤部長、平尾薬剤師、田中薬剤師(左から)



ポスター発表をしている田中薬剤師

写真紹介

津軽保健生協深浦岩崎支部健康

10月4日(土)深浦町ふれあいプラザ恵比寿で、津軽保健生協深浦岩崎支部主催の健康まつりが開催されました。ファルマ一ツ谷薬局から安田薬剤師と事務の木村さん、本部から鈴木課長が参加し、骨密度測定コーナーとお薬相談及び健康食品販売を担当しまつりを盛り上げました。



おくすりの相談と健康食品の販売をしました(左:安田薬剤師、右:木村さん)

亀甲町町会へ出前講座

10月12日(日)亀甲町福祉会館で亀甲町町会健康クラブ主催の出張出前講座が開催され、弘前調剤センターの佐藤薬局長が「お薬の正しい飲み方・使用方法」をテーマに講演しました。服用時の姿勢や飲み合わせ、飲み忘れたときなどについて詳しく説明しました。



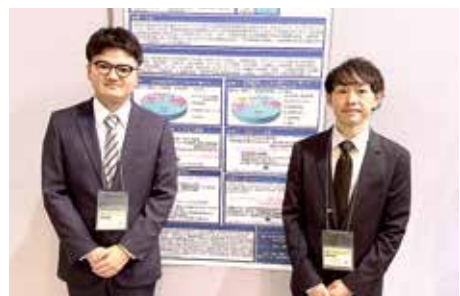
講師を務めた佐藤薬局長(左奥)

平川市教育委員会へ出前講座

10月25日(土)平川市教育委員会主催の出張出前講座が平川市文化センターで行われ、ファルマ弘前薬局の小田桐薬剤師が「お薬の正しい飲み方・飲み合わせ・使い方」をテーマに講演しました。薬に対する疑問や不安がなくなったと参加者の方から感想がありました。



参加者からの質問に答える小田桐薬剤師(左)



参加した高橋薬局長(右)と福井薬剤師

地域医療崩壊の危機

居宅介護支援事業所ファルマ 主任 伊勢 充

10月11日(土)、津軽保健生活協同組合生協会館で「医療崩壊STOP! シンポジウム」が開催されました。当日は会場とオンラインのハイブリッド形式で行われ、会場には100名を超える参加者が集まり、熱気に包まれました。

講師の津軽保健生協泉谷雅人専務理事からは、物価高騰による医療材料費の増大や、最低賃金の引き上げに伴う人件費の上昇など、診療報酬だけでは賄いきれない病院経営の厳しい実情について、

わかりやすく報告がありました。

続いて、岡田はなこ衆議院議員、高橋ちづ子前衆議院議員をシンポジストに迎え、参加者との活発な意見交換が行われました。OTC類似薬の保険適用除外や医療費削減政策、患者の窓口負担増など、地域医療を取り巻く課題が次々と取り上げられ、会場では「このままでは地域医療が崩壊

してしまう」という危機感が共有されました。最後に、地域のいのちと健康を守るため、政策の転換を求める運動を一層強めていくことを、参加者全員で確認し合いました。



講演中の泉谷専務(右奥)

すとう市議の取り組みを通して市政を学ぶ

弘前調剤センター 薬剤師 工藤 雪絵

10月30日(木)に行われた、すとうえりか市議会議員による「地域住民の医療を守るために」市政の動き」をテーマとした社内制度教育に参加しました。

すとう市議が議員になるきっかけや議員の仕事、過去の定例会での一般質問内容や現在の病院の経営困難について、弘前市の現状と医療機関に対する市が検討している対応の内容なども教えていただきました。他にもすとう市

議が訴えたことにより「高齢者の補聴器の購入補助」や「生理の貧困対策として防災備蓄品を活用した生理用品の無償配布」など前進した取り組みの紹介がありました。市民の困っていることに耳を傾け、要望を市へ訴え続けることの大変さを考えると本当にすごいと思います。すとう市議のように日々の仕事の中で、患者様に困り

事がないかアンテナをはって仕事に取り組んでいきたいと思いました。



講師をしてくれたすとう弘前市議会議員(右)

青森県を使用済核燃料の最終処分地にさせないために

本部 課長補佐 工藤 由希子

10月5日(日) 駅前記念会館で「下北原子力半島、むつ中間貯蔵施設をめぐる経緯と今後の課題」をテーマに、核の中間貯蔵施設はいらない! 下北の会の栗橋伸夫さんより講義をいただきました。国は1964年には、下北半島は原子力施設好適地として青森県へ地質調査を依頼しており、その時からずっと原子力と関わっています。2000年にはむつ市長が使用済核燃料中間貯蔵施設の誘致を表明し、住民は必要法定数を大幅に上回る数の住民投票を行う条例制定の署名を集めますが、誘致反対多数を懸念し市議会はこれを否決しました。住民の多くが反対を訴えても国や市によって進められてしまう、こんな不条理があつていいの

でしょうか。原子力マネーで市の財政が潤うかもしれない。しかし、原子力マネーに頼ることで地域発展への創造性が衰退してしまうことも栗橋さんは懸念されていました。このままでは、なし崩し的に青森県が使用済核燃料の最終処分地となってしまう。絶対にそうさせてはいけな、一人でも多くの反対の声が必要です。



講師の話に真剣に耳を傾ける参加者の皆さん

やりがいと責任の大きさを実感



青森大学 薬学部 工藤 雪絵

8月18日から10月31日まで約2か月半、ファルマ弘前薬局で実習をさせていただきました。薬局での調剤や服薬指導、抗がん剤の電話フォローなど、さまざまな業務を体験させていただきました。また、患者様と関わる業務だけでなく、学校薬剤師の業務や健康教室、出前講座などにも参加させていただきました。

ました。地域の方々とお関わりの中で薬剤師の幅広い役割を学びました。他にも、サービ担当会議、地域包括ケア会議など、さまざまな業務や多職種との連携にも参加させていただきました。これらの経験を通して、薬剤師という仕事のやりがいと責任の大きさを実感しました。ファルマ弘前薬局の皆さま、実習を受け入れてくださり本当にありがとうございました。ご指導くださった指導薬剤師をはじめ、事務の皆さまにも大変お世話になりました。短い期間ではありましたが、多

くのことを学ばせていただきました。今回の実習で得た学びを今後活かして、さらに成長できるよう努力していきたいと思っております。お忙しい中、ご指導いただき本当にありがとうございます。

3才のわたし

ファルマ弘前薬局 古川 碧人

3才のころの私は両親が言うには好奇心旺盛な子どもだったそうです。興味のある物がなければずっと静かにぼーっとして、気になるおもちゃや遊びなどがあれば飽きるまで遊んだりしていたそうです。3才のころなので何をしていたか、どんなものに興味をもっていたかなどの細かい記憶は多くないのですが、その中で強く覚えている記憶がありました。それは3才の11月22日、いい夫婦の日に行われた親戚の結婚式でした。結婚式自体には大して興味がなかったのですが、結婚式場の施設に興味を湧いてしまい、人目を避けて式場から抜け出し施設を見て回ろうとしたところを親戚や両親に見つかり捕まらそうになりました。その際、何を勘違いしたのか「鬼ごっこだ!」と思い込み、知らない場所での追いかけっこが楽しかったのとにかく逃げました。結婚式の会場が2階にあり階段を降りたところまでは記憶があるのですが、そこからの記憶が全くありません。多分そのあたりで母に捕まったのでしょう。今ではそこまで夢中になれるものも少なくなりましたが、どこかで機会があったら幼少期、それこそ3才の自分のように無我夢中で気になるものに向かっていきたいです。



好奇心旺盛な子どもでした

幅広い学びを得た実習



青森大学 薬学部 成田 安

8月18日より、ファルマ浪岡薬局で実習をさせていただきました。

実習では、調剤や服薬指導を通して薬剤師としての基本姿勢や患者対応の大切さを学びました。特に3週目から始めた服薬指導では、最初は薬

の説明をすることで精一杯でしたが、回数を重ねるうちに患者様の反応を見ながら説明を工夫し、最終的には会話を意識することができるようになりました。薬の作用や副作用をただ伝えるだけでなく、生活背景や理解度に合わせて話すことの難しさとやりがいを実感しました。また、インシデントレポートやトレーニングレポートの作成、サービ担当会議の見学など、薬局業務以外にも幅広い経験をさせていただきました。さらに、黒石薬局で学校薬剤師業務を見学し、薬剤師の役割を理解することができました。丁寧にご指導くださった薬剤師・事務の方々、ありがとうございました。